

6月は梅雨入りの季節として、雨の日が多く、路面状況や視界が悪くなり、交通事故のリスクが大幅に高まります。また、高い湿度や気圧の変化が体調にも影響を及ぼしますので、体調管理に気を付けて、安全運転を心掛けましょう。

雨の日の交通事故の特徴

過去5年間(R2~R6)の県内発生交通事故統計データより

雨の日は、**歩行者**との事故割合が増加
～特に**横断中**の事故が多い～

湿潤路面では**停止距離**が約**1.5倍**長くなる

(%) 天候別・総事故に占める車×歩行者の事故割合



※上記表は概ねの目安値です。
運転車両、運転者の身体能力・状態、路面状況などによって停止距離は前後します。



ハイドロプレーニング現象とは!?

濡れた路面を走行中、タイヤと路面の間に水が入り込み、摩擦力が失われ、

注意 タイヤが水の上を滑走し、ハンドルやブレーキが効かなくなってしまう現象!

原因: 水たまりの上、高速度、タイヤの溝が減少している状態などで走行すると危険!!



雨の日の運転ポイント

○ **速度**を落とし、**車間距離**を取りましょう

濡れた路面は、乾いた路面より停止距離が伸び、スリップなどの危険性が高まります。普段より速度を落とし、前の車との車間距離を確保しましょう。

○ 普段より**安全確認**を徹底しましょう

雨によって視界は悪くなり、見える範囲も大幅に制限されてしまいます。他の車や歩行者を見落とさないよう普段よりしっかりと安全確認を行いましょ。

○ 日頃から**メンテナンス**を忘れずに

タイヤの溝が減っていたり、ワイパーのゴムが劣化していませんか？
日頃から、タイヤの溝や空気圧、ワイパーゴムの状態などをチェックしましょう。